

園 長	施設長	記録者
		

社会福祉法人駿河会 地域密着型サービス運営推進会議【薬科】

日時 令和7年 6月20日 13:30～14:00

会場 ラポーレ駿河相談室

出席者

園長	川崎誠之	地域代表	森朝世	こだま	小林由季
施設長	佐野雄基	地域代表	田中博子	嘉響	小黑達也
所長	稲葉紀和	地域包括	佐藤孝秀		

事務局

本日はお時間をいただきましてありがとうございます。

早速ですが駿河会の地域密着型サービス運営推進会議を始めたいと思います。

はじめの挨拶

佐野施設長

4月より施設長となりました佐野です。

本日はご参加いただきありがとうございます。自身も服織包括に勤務していたこともあり、デイサービスそれぞれに地域ごとの特徴があります。嘉響・こだまの報告を聞いていただき、忌憚のないご意見を頂ければと思いますので、よろしくお願いします。

事務局

本日の議題は令和6年度の実績報告等について、嘉響・こだま双方の担当者より報告させていただきます。

まず初めに、近状についてご報告させていただきます。

●添付資料

※こだま・嘉響報告原稿

それでは、ここからは こだま、嘉響の順で、各担当者から報告させていただきます。

こだま（小林） 添付書類参照

嘉響（小黑） 添付書類参照

事務局

以上、こだま、嘉響における令和6年度実績の報告でした。

各担当者は、もっとお話ししたい事があると思います。

森さん、田中さん「こんなことを聞いてみたい」というような事がありますか？

森委員

私が住んでいる小布杉では隣家までの距離があることや地域の行事がなくなっていることで同じ村でもお互いの動向がわからない、顔の见えない関係となってしまうています。また、独居の方がなくなったりすると空き家も増えてきていて、山間部の今後を考えると不安なことが多くあります。地域の総会がありますが、そのほかに住民が集まるような催しもなく、横のつながりが薄くなったように思います。先日久々に開催された健康教室では公民館がいっぱいになるほど集まることができました。

嘉響（小黒）

社会福祉法人として、地域の方々のお役にたてるよう、何か関わりが持てる取り組みについても今後検討して実施していきたいと思います。

田中委員

私も羽鳥で地域の事を行ってきましたが、住民同士の関わりは少なくなっているように感じています。羽鳥地域では若い方が増えている現状もあり、皆が関われるものがあると良いなと考えています。地域と関わりを持つためにはまず個人での介入もよいと思うので、何かあれば相談してくれればと思います。

終わりの挨拶

川崎園長

貴重なご意見をありがとうございます。

いただいたご意見を参考に、駿河会として地域にむけてどういったことができるのかを今後とも検討していきたいと思います。

“デイサービス”という枠にとらわれるのではなく、地域の為になるサービス提供はどういったものか、地域に寄り添っていききたいと思います。

本日はありがとうございました。

事務局

皆さま、様々なご意見ありがとうございました。これで会議を終了とさせていただきます。次回開催時は準備ができ次第ご連絡差し上げるように致します。

本日はありがとうございました。

デイサービスセンターこだま令和6年度実績報告

令和 7 年 6 月 20 日

★近況報告

こだまを利用されている方は、介護度が要支援 1 から要介護5の、58才から 100 才の幅広い年齢層の方が利用されています。年齢差は 42 才です。親子以上、もしくは孫位離れています。
(前年度の年齢差21歳)

こだま職員の平均年齢は60才なので、職員の方が年上の方もいます。好きなことも全く違うので、みんなが楽しめるデイサービスにすることに試行錯誤しています。今までと違い、年齢の若い人に受け入れられる活動の検討が必要となっています。

現在、こだまの介護職員は、私を含め3名です。職員数が少ないので、毎日、他の部署からサポートを受け、夜間にはルンバが掃除職員として活躍しています。

★稼働状況

	令和 6 年度	令和 5 年度
延べ利用者数	1548 名	1759 名
1 日平均利用者数	5.01 名	5.71 名
稼働率	36.7%	47.59%
年間収入	2007 万円	2207 万円
新規利用者数	16 名(外部 7 名)	12 名(外部 4 名)
終結者	6 名	17 名

<最近の傾向>

1年間の平均でみると、令和 5 年度の収入より減っていますが、令和6年度の4月は、1日平均利用者数 5.38 名、月收入 184 万円でしたが、令和7年3月では、1日平均利用者数は 6.1 名 月收入は 196 万円 となり増加してきています。

また、終結者数が少なかったため、新規利用者数が終結者数を6年ぶりに上回る事ができました。

他のデイでは落ち着かず対応しきれない方や、デイに行く事を嫌がっているなど、認知機能的

に大変な方の紹介に加え、褥瘡がある方や末期の方など身体的に重度の方の紹介もありました。また、様々な理由で、時間短縮での利用を希望される方も聞かれるようになりました。

★活動報告

目標：こだまに相談してみようと思える関係づくり

活動：①専門的な視点から“こだまでできること”を抽出

②居宅支援事業所に営業に行き、情報を伝え、ケアマネと繋がりを作る

③問い合わせ件数が増える

結果：問い合わせ件数:26件(前年度16件) 新規利用者数:16名(前年度12名)

目標新規利用者13名は達成しました。

“こだまでできること”を冊子にまとめて、営業に回り配布してきました。駿河会の他部署の力も借り、居宅支援事業所だけでなく、地域包括への営業も行きました。今まで付き合いのなかった、居宅からの紹介や、地域包括からの問い合わせなども頂く事ができました。

利用者が増加する事ができたのは、営業の成果だと思っています。

現在も、実績を届けながら、居宅支援事業所に足を運び、顔つなぎを継続しています。

直接話をする事により、ケアマネと話をしやすくなり、情報交換もできる様になりました。

この一年で、こだまは認知症に対する対応力は強みである事を知ってもらえたと感じています。

様々な方の紹介を受け、褥瘡など医療的なことが必要とされる方への対応力、知識不足を感じるがありました。

今年度は、『病気や障害があっても自宅で暮らし続けられるこだまになる』を目標に、今のこだまに足りないところの強化をしていきたいと思っています。

★地域に向けた活動

・ゴミ箱作り

利用者と共に、広告や新聞紙を折り、ゴミ箱を制作し施設に寄付をしています。

少ない職員の為、できる活動に限りがありますが、地域などで困っていることに対し、相談にのり在宅生活が継続できるお手伝いをしていきたいと思っています。

1.令和 6 年度の実績

	【令和 5 年度】	【令和 6 年度】
延べ利用者数	3153 名	3542 名
(内訳)	総合事業:1225 名 地域密着:1928 名	総合事業:1253 名 地域密着:2289 名
1 日平均利用者数	10.27 名	11.54 名
稼働率	57%	65%
年間収入	2831 万円	3177 万
新規利用者	19 名	21 名
終結者数	20 名	8 名

新規利用数は 21 名中、15 名が要支援認定者となり、R5 年度と同様に介護度が軽度の方に多く利用していただいた。事業対象者や要支援 1 の方でも、必要に応じて週 2 回の利用を受けたり、入浴希望を受けたりと、求められるサービスに柔軟に対応してきたことや、今までは交流目的の新規利用が多かったのに対し、マシンを導入したことで、要介護認定者の機能訓練目的の新規利用が増えた。

2.2024 年度 品質目標について

令和6年度は“顧客に選ばれる嘉響になろう”との品質目標を掲げ、ケアマネに対するニーズ調査や広報活動を実施。目標平均稼働率65%以上に対して、結果は月平均稼働率約65%となりほぼ目標達成となった。

ケアマネ対象にニーズ調査を実施した結果として、通所事業所に求めるものとして機能訓練の需要が高いことが分かったこともあり、R6.12 月に運動機械を導入(ロイング・レッグプレス・IPD バイク・プーリー)した。機械導入にあたり、午前中のプログラムを見直し、頭の体操・機械運動・集団体操・入浴等、複数のサービスを同時進行で提供できる形式とした。また、運動への意欲が高い利用者様に対しては午前中だけでなく午後も機械運動を実施していただくなど、機能訓練内容が充実する結果となった。

・食事について、他事業所で提供されている食事内容や提供方法を参照し、食事の提供方法についても見直しを行った。食事に関するイベントの企画を毎月実施し、昼食は今までランチョンマットを使用していたところをトレーでの提供に変更、副食を 4 品から 5 品に増やし、満足度調査においても食事量・味付けともに満足いただけている回答を得られることができた。

・広報活動に関しては、年 3 回内部居宅、外部居宅に訪問。広報誌を活用し、嘉響の中での活動、食事、運動等の活動を幅広く知ってもらえるようにアピールをしてきた。その結果、外部居宅からの問い合わせが増え、そのまま新規利用につながるケースが多かった。

3.その他トピックス

今年度も安全にサービス提供が行えるように、サービス提供方法やプログラムについて、検討・変更をおこない、選ばれる嘉響になることで、引き続き顧客の獲得、稼働率の向上を目指していきたいです。